

令和8年5月14日

各 位

会社名	株式会社アイビー化粧品
代表者名	代表取締役社長 白銀 浩二 (コード番号 4918 東証スタンダード)
問合せ先 役職・氏名	常務取締役 経営管理部 部長 中山 聖仁
電 話	03-6880-1201

中東情勢の緊迫化による影響および 令和9年3月期の業績予想についてのお知らせ

令和8年2月28日に始まったイスラエルと米国によるイランへの大規模攻撃およびイランからの周辺国も巻き込んだ反撃による中東情勢の緊迫化により、サプライチェーンの分断が発生しております。

現状において、原油・ナフサ等を主原料とする石油化学製品およびアルミ製品等の調達環境に影響が生じはじめている旨、複数の商社や資材・原料メーカーから連絡が入ってきております。特に、ナフサ供給不足は、川下である化粧品会社への影響は大きなものとなっております。

なお、中東情勢の緊迫化による当社業績への影響および令和9年3月期の業績予想について、本日時点における状況を下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 中東情勢の緊迫化に関連した対応

(1)化粧品および医薬部外品等の生産への影響について

今後、中東情勢が長期化した場合、仕入価格への影響、調達上の制限、先行発注確保等のリスクが顕在化する可能性があります。

現時点で具体的な事案として懸念されることは以下になります。

- ① 海外調達(東アジア生産工場)の原材料については、サプライチェーンに混乱が生じており、すでに納期が遅延する可能性がある旨、取引先より連絡が入り始めております。
- ② 輸送ルートの関係で原材料メーカー工場に元原料が入りにくくなっていること、それにより、国内生産の原材料についても、調達価格の上昇、納期遅延の可能性がります。
- ③ さらに、紛争が長期化した場合、政府主導による用途制限が課され、化粧品会社への原材料の供給制限がかかる可能性があります。

なお、当社においては、比較的早めに原材料を手当していたこともあり、現時点において、一部を除いて既存製品の製造に問題は生じておりません。

ただし、新製品と既存製品の一部は、原材料の納期確約を得られておりませんので、それに関連する売上高については、令和9年3月期業績予想において、ないものとして前提をしております。また、多くの取引先より納期遅延の連絡、および原油価格の上昇を理由に値上の打診がきており、それにより製造原価は上昇すると予想しております。

具体的には、

- ① 資材について、一部プラスチック樹脂材料に納期遅延の懸念があります。また、チューブタイプのようなアルミ使用資材については、納期遅延の連絡が入ってきております。紙類については、現時点において調達そのものに問題はありませんが、一部の特殊加飾の箱類は、「今後供給できなくなる懸念がある」旨の連絡を受けております。
- ② 一部の原材料については、取引先より、「納期を確約出来ない」旨連絡を受けております。

(2) 売上高への影響

当社の売上高は国内向けが主であり、紛争地域に対する輸出はおこなっておりませんので、直接的な売上高への影響はありません。

一方、上記記載のとおり、原材料の調達について、取引先とも協力して確保に動いておりますが、化粧品および医薬部外品等の原材料の納期が一部確定できていないため、製造遅延による機会ロスが発生する可能性があります。

ただ、当社は各製品在庫を数ヶ月分は保有しており、原材料も一部を除いて確保出来ているため、現時点において既存製品の出荷に問題は発生しておりません。

一方、令和9年3月期発売の50周年記念大型スキンケア製品(当初計画では令和8年10月発売予定)については、状況が不透明なため、令和9年3月期の業績予想には織り込んでおりません。原材料の納期が確定しましたら発売を行う予定です。

(3) 製造原価への影響

原材料メーカーからの要請により、調達価格の上昇の可能性があります。また、間接費用としての製造水道光熱費なども上昇する可能性があります。現時点で平均約1割程度の原材料価格値上の打診が入っております。

また、取引先からの納期遅延が発生した場合、生産の平準化を行うことが出来なくなるため、製造原価率の上昇要因となります。

(4) 経費への影響

原油価格の変動は、物流コストをはじめ物価変動の主要因のため、運賃荷造費や旅費交通費などの経費が上昇する可能性があります。

(5) 財務への影響

当社は自己資本比率も令和8年3月期末で72.4%あり、多少の環境変化があつたとしても耐えられる強固な財務状況であります。原材料の発注を早め早めに行っておりますので、キャッシュフローに対する影響は多少ありますが、令和8年3月期末で1,044百万円と十分な

現預金を有しているため、資金繰りの懸念はありません。また、有利子負債も令和8年3月期末で278百万円であり、物価上昇にともなう急激な金利上昇があったとしても、影響は軽微と考えております。

2. 令和9年3月期の業績見通しについて

令和9年3月期の業績見通しについては、前提として、中東紛争の影響が長期化し、ホルムズ海峡が年を越えて封鎖されたままだったケースで予想を立てております。その場合においても、現有保有の原材料により、既存製品については一部欠品にはなるものの、例年並みの生産数量は確保出来る見通しです。

一方、50周年記念大型スキンケア製品については、状況が不透明なため、令和9年3月期の業績予想には織り込んでおりません。原材料の納期が確定しましたら発売を行う予定です。

また、原材料の値上げにより、売上原価率は上昇すると考えております。販売費及び一般管理費については、引き続き削減方針です。

ここ近年の経営努力により、損益分岐点が下がっておりますので、中東紛争の影響が長期化したとしても、収益を出せる体質であります。

以上により、令和9年3月期第2四半期累計期間の業績見通しは、売上高1,380百万円、営業利益150百万円、経常利益150百万円、四半期純利益120百万円を予想しております。通期見通しについては、売上高2,640百万円、営業利益200百万円、経常利益200百万円、当期純利益140百万円を予想しております。

前提条件として、中東紛争の影響でホルムズ海峡が年を越えて封鎖されたままだった場合で予想しておりますので、外交的努力または他の方法で関係各国および日本政府が問題を早期に解決し、サプライチェーンの分断が解消し、予想の修正が必要になった場合には、改めてお知らせ致します。

なお、1株当たり当期純利益については、A種優先株式の支払想定額を控除し、算定しております。

(令和9年3月期業績見通し)

売上高	2,640百万円	(当事業年度比)	0.1%減)
営業利益	200百万円	(当事業年度比)	2.4%増)
経常利益	200百万円	(当事業年度比)	3.9%増)
当期純利益	140百万円	(当事業年度比)	14.9%減)
1株当たり当期純利益	17.15円	(当事業年度)	22.45円)

以 上